

Panasonic

建築設計 REPORT

ARCHITECTURAL DESIGN REPORT
vol.58 2026・09

特集——つながりが紡ぎだす、まちの未来



1970年代、旧国鉄のキャンペーン「ディスカバー・ジャパン」により、観光は観光地を巡る旅から、地方の日常や精神性に触れる旅へと様相を変えた。2003年には小泉純一郎首相が「観光立国」を宣言すると、交流人口という言葉が一般的になり、各自治体が観光（交流人口拡大）へと舵を切るようになった。しかし、観光客のような一過性の交流だけでは地方の担い手不足を根本的に解決することはできない。そこで登場したのが「関係人口」。現在のまちづくりの主流へとつながる「関係人口」を理論化した島根県立大学地域政策学部准教授の田中輝美氏に、その潜在的なダイナミズムをたずねた。

物ではなく 人に向き合う仕事をしたい

— 最初は新聞記者をされていたそうですね。

島根県浜田市で高校卒業まで育った私は、仏像がとても好きだったので、寺院が密集している関西の大学に進学しました。そこで仏像まみれの大学生活を送ったのですが、志していた学芸員の仕事が自分には合わないと感じたのです。「私は物より、人と向き合う仕事をしたい」と強く思いました。そこで新聞記者をめざして就職したのは地元の山陰中央新報社でした。仕事自体は忙しかったのですが、取材先と話をすることで凄く励まされ、楽しくやりがいがあって、天職だなと思っていました。

しかし、少し物足りなさも感じていました。新聞記者が書く記事はエッセンスだということです。「10割を聞いて9割を捨てる。1割のエッセンスをつかめ」と教わっていましたが、それは新聞の紙面に限りがあるからです。新聞の本質論ではあるのですが、「10割を聞いたら10割を書いた方が面白いのでは」と思ったのです。

地域に暮らすからこそ 伝えられることがある

— その後、新聞社を退社されましたね。

入社10年目に東京支社に転勤して政治担当になって驚いたのは、東京の人は地方のことを知らないこと。それは地方の情報が届いていないからです。地方紙は東京からの情報を一方通行で掲載しているだけで、地方の情報は地方の人にしか届けられない。島根県は人口減少と少子高齢化の最先端なので、それに向かって挑戦している人も多い。その人たちの挑戦の記録を地方に暮らしながら全国に発信していきたいと思って15年間勤めた山陰中央新報社を退社しました。肩書きは自分で考えた「ローカルジャーナリスト」で、キャッチコピーは「地域に暮らすからこそ、伝えられることがある」。こうして、松江市内の古民家をリノベーションしたシェアオフィスを拠点に活動を始めました。地域再生をテーマに課題先進県・島根で起きるさまざまな取り組みを取材して本を出版。新聞や雑誌にも署名記事を連載して、島根地方の取り組みを全国に発信し始めました。

田中 輝美

Tanaka Terumi 〔島根県立大学 地域政策学部地域づくりコース 准教授、博士〕

人材をシェアする「関係人口」は、
人口減少社会のキーワード

CONTENTS

特集：つながりが紡ぎだす、まちの未来

SPECIAL INTERVIEW
田中 輝美 氏 1

SPECIAL EDITION
パロマ瑞穂スタジアム 5
Swatch Nines Snow 2026 9
浜松まちなかライトアップ 11
フォレストスクエア仙川 13
築上町図書館 築きのもり 15
白川橋 17

RECENT PROJECT
パナソニックEWエンジニアリング株式会社 本社・近畿支店 19

くらしは文化
片倉館 21

＊本誌では略称を用いています。また、一部敬称は略させていただきます。
表紙写真：パロマ瑞穂スタジアム

観光以上、定住未満で 注目される「関係人口」

— 研究されている「関係人口」について教えてください。

ローカルジャーナリストとして活動する中で関心を持ったのは2016年頃からよく使われるようになった「関係人口」です。簡単にいうと「観光以上、定住未満」。人口減少が切実な地域は、これまで移住を促す「定住人口」の獲得をめざしていました。しかし、それはハードルが高い上に減少していくパイを取り合うだけになりがちです。とはいえ、観光に代表される「交流人口」は短期的で担い手にはなりにくい。第3の道である「関係人口」とは、住みはしないが『地域づくりがおもしろい』と積極的に仲間になるような関わり方です。私がこれに関心を持ったのは、地元の島根に貢献したい都市在住者や学生との出会いがきっかけでした。「関係人口」に可能性を感じて大阪大学の大学院に進学しました。「関係人口」は島根にいたからこそ気づけたキーワードで、近年、急速に関心が高まり、総務省や政府も「関係人口」の創出・拡大に力を入れています。

迎える側とつながる側が「関係人口」を生んだ

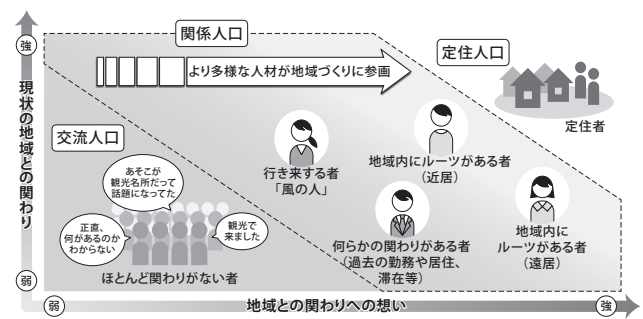
—「関係人口」が生まれたのはなぜですか。

「関係人口」が生まれた背景には、課題を抱える地域と、そこにつながる人という2つの側面があります。

地域側からすると、先ほども述べたように観光客(交流人口)は、にぎわいや地域経済の活性化を促すことはありますが、繰り返し来ることは少ないです。観光対応をずっと続けていると疲弊してしまいます。この課題を乗り越えるのが「つながり」です。何度も地域に来てくれる人を指す言葉は当時「リピーター」くらいしかありませんでした。経済活動も大事ですが、つながり、一緒に継続してつくっていくことも大事だとして生まれたのが「関係人口」なのです。

交流人口	関係人口	定住人口
短期的に訪問する	継続的に関心を持ち、 関与する	長期的に居住する

定住人口・交流人口と関係人口 提供:田中 輝美 氏



関係人口の図解 出典：総務省「二地域居住・関係人口ポータルサイト」

もう一つは、つながる人です。面白いのは、「関係人口」になりたいと言う人たちが増えていることです。都会の若い人には地元愛が持てないまま大人になった「ふるさと難民」のような人が増えています。その人たちは「ただいま」「おかえり」と言い合えるようなつながりが憧れだそうです。人とのかつながりこそが、社会的な価値を持つ時代になっているのです。こうして、もっと継続的なつながりや関係が欲しいと言う地方と、つながりに憧れている若い人がうまくマッチングして生まれたのが「関係人口」と言えるでしょう。

共に汗を流すことで
新しい友だちになる

一 関係人口の事例をご紹介します。

たとえば島根県内では「関係人口」の人たちが通ってきて一緒に草刈りをする「草刈り応援隊」という取り組みがあります。草刈り機を動かすと目に見えて場所がきれいになり、とても感謝されます。これは日々の仕事では味わえない充実感があるそうです。「関係人口」の人も喜ぶし、地域側も大変な草刈りをしてもらえるので、とても助かります。これまで過疎地や地方は、観光客は1度来て帰るのが一般的でしたが、定期的に草刈りを一緒にすれば仲間です。そういう新しい外の仲間ができたという感覚が、地域にとっては凄くうれしいのです。

もう一つは、イルミネーションイベントを「関係人口」と一緒につくる島根県内の取り組みがあります。これまでは地域の人が手弁当で一生懸命に準備をして、観光客は見て「きれいだね」と言って帰っていく形でした。ところが今では、「関係人口」が来て、一緒に準備をしてカウントダウンする。「あれが、わたしが飾り付けしたやつだよ」と

田中 輝美 氏

鳥根県立大学地域政策学部准教授。ローカルジャーナリスト。1976年 鳥根県生まれ。大阪大学文学部卒業。1999年、山陰中央新報社に入社。2008年、企画「愛・地域医療の存亡」でファイザー医学記事賞受賞。13年、琉球新報社との合同企画「還りの海―竹島と尖閣」で新聞協会賞を受賞。14年秋、同社を退職し、ローカルジャーナリストとして活動。18年度経務省ふるさとづくり大賞奨励賞受賞。20年、大阪大学大学院人間科学研究科後期課程修了。博士(人間科学)。21年4月より現職。

著書

- 「ローカル鉄道という希望」(河出書房新社 2016年、第42回交通図書賞奨励賞)
- 「関係人口をつくる」(木楽舎 2017年)
- 「関係人口の社会学」(大阪大学出版会 2021年、第1回日本社会関係学会賞最優秀賞)
- 「日本の未来は島根がつくる」(山陰中央新報社 2024年)
- 「関係人口の時代」(中公新書 2025年)

など多数

共著

- 「未来を変えた島の学校」(岩波書店、2015年)
- 「地域ではたらく『風の人』という新しい選択」(ハーベスト出版 2015年、第29回地方出版文化功労賞)



盛り上がりって、片付けもして帰るのです。それまでは、地域の人が全部自分たちでやって、疲れて打ち上げもできないような状態でした。それが、準備から鑑賞、後片付けまでをして、終わった後に一緒にバーベキューをすることで、「また来年もやろうね」という良い循環も生まれています。これには島根県立大学の学生たちも参加しています。ゼミ生はもちろんのこと、授業などで「こんなのがあるから、一緒に行かない?」と幅広く声をかけています。

「関係人口」の実践の場
「美又共存同栄ハウス」

一島根県立大学で教えられているんですね。

島根県には4年制大学が2つしかありません。かつては、島根大学しかなく、県西部に4年制大学はありませんでした。現在、人口流出の大きな経路は就職と進学です。島根県西部に残りたくても、大学が無ければ出て行かなくてはなりません。そこで、2000年に地方振興のために開学したのが島根県立大学です。私は、2021年にこの大学の教員となり、生まれ故郷の浜田市に戻ってきました。自分たちの地域で人材を育てていけるかどうかは、地域の未来を左右します。そういう意味で、重要な大学だと思っています。

ここに返ってきて、農協婦人部で活躍していた私のおばあちゃんが勤めていた「旧美又信用購買販売組合事務所」が空き家になっていることを知りました。よくおばあちゃんと手をつないで山道を越えていき、着いたら購買部でおやつを買ってもらえる大好きな建物だったのです。素敵な建物なのですが、築後90年近くになるので、地域の人も解体されるのではないかと心配していました。そこで、2023年春に、仲間と一緒に法人で買って、宿泊とイベントができる

施設として「美又共存同栄ハウス」(写真.p.1)をオープンしました。ここは「関係人口」の実践の拠点としていて、仲間と一緒に勉強や合宿をしています。建物正面に掲げられた「共存同栄」のマークは「互いに助け合い、共に豊かになろう」という考え方を表しています。リノベーション資金をクラウドファンディングで皆に助けてもらってつくったことと、仲間でチームビルディングに使ってもらうことが、現代の共存同栄というコンセプトに沿っていると思っています。

人口減と高齢化により
外の力を借りる力が付いた

—「関係人口」がよそ者扱いされることはないのですか。

地方は「よそ者」を嫌がるという話もありましたが、人口減と高齢化が進んだ今では、自分たちだけでできることは減ってきています。余力があった時は、よそ者への警戒心にもなっていました。しかし、もはや来てくれて手伝ってくれるなら大歓迎という地域もあります。すでに、地方は開かれた状態になりつつあるのです。言い方を変えれば、人口が減って高齢化が進んだからこそ、外の力を借りる力が付いたとも言えるでしょう。

現在、日本は「人口減少ペシズム」と言われていて、人口が減ることを過度に悲観しています。今いる人たちだけでやるのは難しい、新しい力が必要だと思った時に「関係人口」という新たな仲間が来れば、新しい風を吹かせてくれるので、何かやってみようかという気持ちになる。都市と地方で人材をシェアする考え方になれば、人口減少を過度に恐れる必要はないと思います。

私は今、島根にとても希望を感じています。新しい仲間を増やしていける時代なので、人口が減っても新しい地域づくりはできるのではないかと、と思っています。

— ありがとうございます。



2020年に出版を始めた年刊誌『みんなで作る中国山地』。 「地元から、世界を創りなおす!」という思いを実現するために、都市と地方の関係人口が書き手や読者として参画することで、この雑誌を100年間出版していく。 背景紙のデザインにもこだわり、100冊揃った雑誌を並べると、大きな中国山地が現れる。

パロマ瑞穂スタジアム

名古屋市瑞穂公園陸上競技場



片持ち架構を用いた「膜屋根」では、632台の競技用照明がスタジアム内を照らす。
(陸上競技：アジア競技大会のパターン。4方向平均鉛直面照度2,000lx以上、地表面水平面平均照度2,000lx程度)



(上)名古屋市瑞穂公園内のパロマ瑞穂スタジアム (中)膜屋根と周囲の木格子を浮き上がらせるライトアップ
(下)パロマ瑞穂スタジアムと公園をつなぐ8の字回遊路の「MIZUHO-LOOP」では、周囲への光漏れを抑えた特注照明を採用

公園とまちをシームレスにつなぐ 競技場の整備計画

1941年に竣工して以来、幾度もの大規模改修を繰り返してきた名古屋市瑞穂公園陸上競技場が建て替えられることとなった。計画にあたっては興行的な機能拡充だけでなく、住宅街に囲まれた約24haに広がる公園との一体性を高めることが求められた。名古屋市は、民間企業のノウハウによる

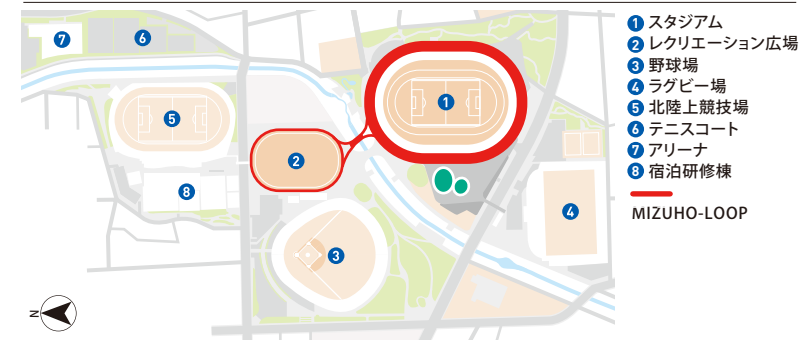
運営効率の最大化を図るためにPFI*を採用。事業推進のため特別目的会社(SPC)として株式会社瑞穂LOOP-PFIが設立された。新スタジアムの最大の特長は、スタジアムを閉ざされた施設ではなく、広大な瑞穂公園全体の都市景観とシームレスに連続させたことにある。これを具現化するのが、スタジアムの3階コンコースと山崎川をまたいだ対岸のレクリエーション広場を

フラットにつなぎ、空中デッキで8の字を形成する全長約1キロメートルの回遊路「MIZUHO-LOOP(瑞穂ループ)」。

この一部であるスタジアム3階コンコースは、イベントがない時には一般市民に無料開放され、散歩やランニングコースとして日常的に親しまれる設計である。なお、当施設は2026年秋のアジア競技大会・アジアパラ競技大会のメイン会場に選定されている。

※PFI(Private Finance Initiative)：民間資金等活用事業

パロマ瑞穂スポーツパーク



パロマ瑞穂スタジアム

所在地／愛知県名古屋市瑞穂区山手通5丁目1番地ほか
建築主／株式会社瑞穂LOOP-PFI
設計／日本設計・竹中工務店・ブレック研究所設計共同体
建設工事／株式会社竹中工務店
電気設備工事／ダイダイン株式会社、株式会社トーエネック、株式会社関電工内、映像・音響設備工事：株式会社関電工
竣工／2026年3月
規模／RC造・一部S造、PC造(膜構造)地上6階建(延床面積：約61,314㎡)
ZEB Ready 認証取得
CASBEE-Sランク認証取得



多彩な国際スポーツに対応する 体験価値を高めたスタジアム

パロマ瑞穂スタジアムは旧競技場と比べて建築規模が大幅に拡大され、地上6階建て、延床面積は約61,314㎡を誇る。全席を覆う屋根は、全ての観客席に雨よけを提供しつつ、適度な自然光をスタンド内部に取り込むことで、快適な観戦環境を作り出している。

新スタジアムでは、LED投光器「スタジアムビーム」を屋根上部および5階レベルのキャットウォークに計632台配置（狭角配光496台・中角配光136台）。各投光器をDMX制御することで、陸上競技やサッカーをはじめとする各種競技の国際基準に対応した照明環境を構築した。陸上競技では、世界陸上競技連盟（WA）の照明基準である4方向平均鉛直面照度2,000 lx以上を確保し、世界レベルの競技大会や映像配信にも対応可能な高水準の照明環境を実現している。

サッカーでは、名古屋グランパスのホームスタジアムとしての利用を想定し、高さ1mにおける水平面照度2,000lx以上を確保。J1クラブライセンス基準を満足するとともに、FIFAが定める水平面照度2,500lxおよび厳しい鉛直面照度基準にも適合し、国際試合や高品質な映像配信に対応する照明環境を実現。

また、DMX制御により照明と大型映像・音響の連動が可能となり、スポーツ観戦の魅力を高める演出空間の創出にも貢献している。

照明計画ではスタジアム3階とレクリエーション広場をつなぐMIZUHO-LOOPを核として、新スタジアムとその周辺の豊かな自然環境、特に山崎川沿いの桜並木や公園内の緑のネットワークとのシームレスな融合をめざした光のデザインが展開されている。

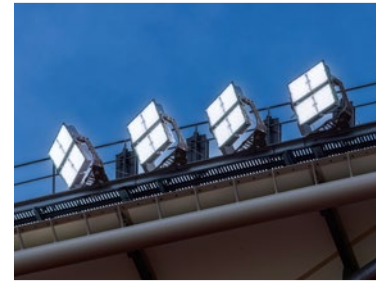
新スタジアムが位置する瑞穂公園は閑静な住宅街に隣接し、貴重な河川生態系があるため、光害に対しても配慮が行われている。CASBEEの評価プロセスでは、屋外および屋内の照明設備から外部に漏れる不要な光を最小限に抑えるように規定されている。このため、園路においても上空や周辺地域への光漏れを抑える配光制御技術が用いられている。



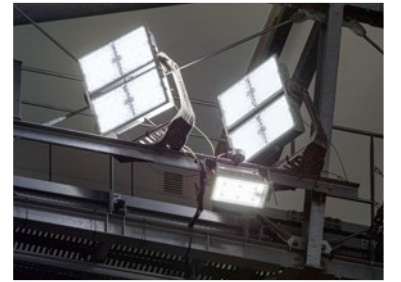
サッカー：FIFAの点灯パターン
（計算面高さ1mでの水平面平均2500lx以上）



ラグビー：リーグワンの点灯パターン
（計算面高さ1.5mでの水平面最小1500lx以上）



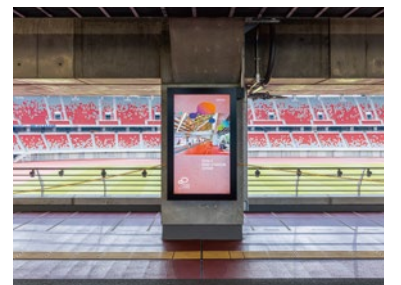
膜屋根根端部に設置された「スタジアムビーム」



キャットウォークに設置された「スタジアムビーム」と客席照明「グラウンドビーム」（右下）



スタンドに設置された大型映像装置



3階コンコースのデジタルサイネージはイベントに連動した内容や地域の情報を提供



キャットウォークに設置されたアレイスピーカー



5階場内放送室に設置された調光操作卓「TESTA」（中央奥）とオーディオミキサー（右）



上方への光を抑えたスタジアムサイドの街路灯



上方への光を抑えた公園内の街路灯

主な納入設備

- LED投光器
- 音響設備
- 大型映像装置
- LEDサイネージ
- 照明制御システム
- LEDスポットライト
- LED街路灯

WEBサイトで動画が
ご覧いただけます



◀（上）膜屋根根端部に設置された「スタジアムビーム」は、DMX制御による動きのある照明演出で観客を盛り上げる
（下）日常的に市民に開かれた幅約6m、1周約635mの3階コンコース。ジグザグのベースライトと県産の杉を用いた木格子のライトアップが印象的



(上) 背後に羊蹄山を望む特設コースでは、最上部に設けられたMini Mt. Yoteiをライトアップ。(下左) プレーヤーを照射することで没入感を演出
(下中) 世界屈指の豪雪とパウダースノーで知られるニセコにつくり出された特設コース。(下右) 日本の伝統的な反り橋をモチーフにしたSoribashi Bridgeのライトアップ

Swatch Nines Snow 2026

多様な演出用照明器具の連動によりアスリートが躍動する劇場空間を創出
北海道のニセコ東急グラン・ヒラフで開催された「Swatch Nines Snow 2026」は、世界トップクラスのスキーマーやスノーボーダーが集結し、特設コースを舞台に創造性あふれるパフォーマンスを披露する国際的なアクションスポーツイベント。パナソニックは、スキー、スノーボーダーが技を競う特設コースのライトアップ演出を担当。数種類のライトアップ演出用フルカラー照明器具をコース各所に配置して合計35台をDMXにより個別制御。ライティングフローによって設計した照明演出パターンを状況に応じて柔軟に選択

できるシステムを構築した。これにより、特設コースのライトアップだけではなく、アスリートの滑走やトリックの魅力をより一層引き立てている。株式会社まちのミライ 営業戦略部 エキスパートプランナーの佐藤 駿氏は「当社は北海道を良くするため、さまざまな事業を展開している。今回のスポーツイベントもその一つで、世界中の方々がニセコに注目することで観光を促進し、子どもたちがプロアスリートと触れ合う機会も作っている。今回の夜間照明は素晴らしく、創設者のNicoZacekさんも夕食会の挨拶で、ナイトシューティングは最高だったと評価されていた。それが全てを物語っている」と語る。

Swatch Nines Snow 2026

開催地／北海道虻田郡倶知安町（ニセコ東急 グラン・ヒラフ）
主催／The Nines AG
共催／株式会社まちのミライ
協賛／パナソニック エレクトリックワークス株式会社
照明設計／パナソニック エレクトリックワークス株式会社
電気工事／パナソニックEWエンジニアリング株式会社
会期／2026年4月6～11日



スポンサーカラー（Red）の演出シーン



パナソニックカラー（Blue）の演出シーン



走行面の凹凸を浮き上がらせる
小型フルカラー投光器「ダイナワン」(写真左)



複数台のライトアップ演出用照明器具で
コースをドラマチックに演出



ライトアップ演出用照明器具「ダイナベインター」



ライン型のライトアップ演出用照明器具
「アーキライン」4feetタイプ

ライティングフローによるカラーシミュレーション



主な納入設備

● ライトアップ演出用照明器具 ● DMXコントローラ

WEBサイトで動画が
ご覧いただけます





非常にスリムでコンパクトな「アーキライン」をアーケードのリブに組み込むことで、光源を見せることなくフルカラーライトアップされた歩行者通路。
演出は、浜松市を表すブルーとグリーンに塗り分けられたコラボカラー

浜松まちなかライトアップ

地域の人びとを明るく元気にする 公民連携で実現したライトアップ

浜松市中央区の中心市街地（まちなか）では、商業施設や観光拠点をイルミネーションで結ぶ夜間景観ネットワークが構築されている。今回、ライトアップが行われたのは、JR浜松駅北口周辺。大正時代から浜松市と共に歩んできた株式会社電器堂が、2025年11月、JR浜松駅北口周辺のライトアップ設備を浜松市に寄贈。11月23日には、市民に向けた点灯式とセレモニーが挙行された。駅ビル「メイワン」と直結するアーケードのある歩行者通路は乗降客が往来する駅の主要動線。ここでは、非常にスリムでコンパクトな形状の

ライン型フルカラー照明器具「アーキライン」76台をアーケードのリブに組み込み、41台のDMXスポットライトで全体をDMX制御によりダイナミックに演出している。演出プログラムはストーリー性を重視し、春には「桜」を連想させるピンク、初夏には「新緑」をイメージさせる鮮やかなグリーンなど、季節ごとに色彩が緩やかに変遷する。また、年始やクリスマスなどの祝祭日だけでなく、アウェアネスカラー[※]によるライトアップも行い、周囲の公共施設や自治体と連携した社会的メッセージの発信装置としての役割も担う。今回のライトアップは、公民連携による地域貢献活動のモデルとして評価されている。

※アウェアネスカラー：様々な社会運動や疾患に対する支援・賛同の意思を示すために用いられるシンボルカラー



浜松まちなかライトアップ
■ライトアップ設備設置工事
所在地／静岡県浜松市中央区砂山町
施主／浜松市
企業寄付／株式会社電器堂
設備竣工／2025年11月



桜を想起させるピンクや新緑をイメージした
グリーンの「春」



レッドやオレンジ、イエローを組み合わせ
紅葉を表現している「秋」



パープルやホワイト、ブルーを組み合わせ
白夜を表現した「冬」



クリスマスなどのイベント時に使用される
「レインボーカラー」



地下1階からアーチ状の天井を見上げる



演出は特別な日のプログラム「レインボーカラー」



ライトアップされた「出世大名家康くん」（写真中央）



コラボカラーに染められた北口広場のモニュメント

主な納入設備

- ライトアップ演出用照明器具
- LEDフルカラー投光器
- DMXスポットライト
- コントローラ

WEBサイトで動画が
ご覧いただけます





木立こだちの中を散策するように過ごす「SENGAWA TERRACE」は、軒先や蛇籠ベンチの照明、ガーデンライトなど多種多様なあかりが空間を包み込んでいる。その日の気分に合わせて居心地の良い場所を見つけられる中庭空間を創出している

フォレストスクエア仙川

土地の緑の記憶を紡ぎ、まちの新たな居場所を創出する「緑のまちなみ建築」

株式会社カワタケは自社が所有する土地・建物を「仙川というまちをデザインするピース」と位置づけ、これらが調和することでまちの美しさと機能を高める、まちづくりビジョン「SENGAWA DESIGN PIECE」を掲げてきた。2025年12月にオープンを迎えた「フォレストスクエア仙川」は、その理念を体現するデザインピースとして計画された商業施設である。本施設の設計・施工を担ったのが、これまでも「カワタケオークビル」などを手掛けた株式会社竹中工務店。建築は周辺の街並みと呼応する分棟構成とし、建物の間に中庭や外部

空間を挿入することで、緑を感じながら回遊できる環境を創出している。1階に駐車場を整備し、2・3階は中庭を囲むように店舗を配置しており、外部の喧騒を和らげ、光と緑あふれる中庭空間を実現している。こうした計画は、かつて事業主の旧邸と豊かな雑木林が広がっていた敷地の記憶を現代的なデザインとして再構築し、仙川というまちの中でリビングのようにくつろげる場を創出するものとなっている。また、照明コンセプトは「人を導く光のシークエンス」。導入部は「面の光」で目を引き、動線部は「線の光」で誘導、ベンチ廻りは「点の光」で滞在を促すという、3つの光で人を導く照明計画が採用されている。

フォレストスクエア仙川

所在地／東京都調布市仙川町
事業主／株式会社カワタケ
設計・施工／株式会社竹中工務店
電気工事／株式会社HEXEL Works
オープン／2025年12月
規模／地上3階（延床面積：5,980㎡）



甲州街道から視認される、夜間の光の演出によって施設の象徴的な顔となる北側ファサード



2階の「SENGAWA TERRACE」から北側を望む。植栽は鉛直面照度を高めた「面の光」



脚元を間接光で照らした蛇籠ベンチの「点の光」とガーデンライトで居場所を演出したテラス



ステップ広場の足元を照らす間接光。接道側に向けて軒先を下げ、まちとの繋がりを創出している



エスカレーター上部のスポットライトは吹き抜けの周囲から照射することで均一な明るさを確保



3階軒天を照らす建築化照明が通路の明るさ感と施設のグレード感を高めている



女子トイレに設置されたペンダントライト「MODIFY」。ミラーライトとダウンライトは肌や髪を美しく見せる高演色タイプ



「SENGAWA DESIGN PIECE」のイラストマップが設置された3階テラス



主な納入設備

- LEDダウンライト
- LED軒下用ダウンライト
- LED軒下用シーリングライト
- LEDスポットライト
- LEDフットスタンド
- LEDペンダント照明



(左上) 人びとが集まる樹木のように空へと広がるファサードへのライトアップ。(右上) 京築ヒノキを使った、森のような吹き抜け空間に影を落とすLEDスポットライト「TOLSO+」
(左下) 親子で遊びながら本と触れ合う1階の「あそべるほんだな」では、メリハリのあるあかりが用いられている。(右下) 「あそべるほんだな」内に設けられた階段本棚やすべり台

多様な世代が出会い、つながる “本のもり”のような図書館

地域で親しまれてきた庁舎が、リノベーションにより、“本のもり”のような図書館に生まれ変わった。外装を全面改修するのではなく、庁舎の周りを木の枝をイメージしたアルミルーバーで柔らかに包み込むことで、田園風景の中の木立ちに誘い込むようなファサードがづくり出されている。エントランスホールに新しく設けられたのは、地場産の京築ヒノキをふんだんに使った空間。天井から降り注ぐように配置された木材は「開いたページ」がイメージされている。1階は子どもや子育て世代を中心とした人たちが、おしゃべりや

交流を楽しめる「動」の空間。2階はたくさんの本に出会い、集中して学習をし、読書を楽しむ「静」の空間。3階は多目的な交流スペースとなっている。照明計画では、灯具に電源を納めたコンパクトなLEDスポットライト「TOLSO+」を館内全体に約500台導入。木製ルーバーや館内各所に配置されたサインに光を当て、壁面や床面に美しい影を投影することにより、空間の奥行き感をさらに強調している。また、ファサードの木立のようなルーバーのライトアップにあたっては、追加したルーバー部分を際立たせるように色温度を4000Kとし、シミュレーションソフト「ライティングフロー」により、その効果が確認されている。

築上町図書館

所在地／福岡県築上郡築上町
施主／築上町
設計・監理／隈研吾建築都市設計事務所
建築工事／松山建設株式会社
電気工事／株式会社クラブティア
竣工／2025年11月
規模／RC造一部S造 3階建(延床面積:2,848㎡)



1階にある、子育て世代のための書架エリア。左奥は読み聞かせ室



子どもたちを誘う、木で囲まれた「ほんのもり」



2階の読書や学習のための開架フロア



「TOLSO+」でデスク面を照射した2階学習スペース



スポットライトで浮き上がる切り文字のサイン



壁面の切り文字サインにもスポットライトにより陰影が付けられている

ライティングフローによるファサードのシミュレーション



主な納入設備

● LEDスポットライト

築上町図書館

築きのもり



白川橋

レインボー色が流れるように橋脚と欄干を彩り、橋全体が七色で塗り替えられて変化するプログラム。特別なイベント用で、「白川橋100周年イベント」でも採用された。飛騨川に映る光も美しい

100年の時を超えたまちのシンボルを町内外の協力で幻想的にライトアップ

大正15年(1926)に、清流「白川」と「飛騨川」の合流点に建設された橋長115mの白川橋。鋼トラス構造の主塔を持つ3径間吊橋は全国的にも珍しく、当時としては先進的な技術と洗練された欧風デザインの近代橋梁として親しまれ、2006年には土木学会選奨土木遺産に認定、2013年には国の有形文化財に登録されている。架橋100周年を迎えることから、白川町は照明設備をフルカラーLEDに一新する「白川橋建造100周年記念事業」を計画。行政の単独財源だけでなく、地域住民や白川町を応援する全国のサポーターから

広く寄附を募る協働型プロジェクトにより改修を計画した。導入された照明設備は、主塔にライトアップ演出用照明器具「ダイナワン」の狭角を用い、欄干は広角を採用して橋全体をライトアップ。8パターンの演出プログラムを登録することで、季節やイベントに合わせて演出再生が可能となっている。2026年3月28日の「白川橋100周年イベント」では、町内外から多くの人たちが集まり、ライトアップを堪能した。また、国道41号白川町区間は、日本風景街道「美濃白川四季彩街道」に認定されており、名所でもある白川橋はJR高山本線の列車から見えることから、ナイトツーリズムも含めた観光に寄与することが期待されている。

白川橋

■ライトアップ演出設備設置工事
所在地／岐阜県加茂郡白川町
事業主／白川町
電気工事／伊東電設株式会社
設備竣工／2026年3月



【春】ピンクと白を基調とし、桜が風に舞うようにピンクの光が流れていく



【初夏】白川の名産であるお茶をイメージした様々な緑が織りなす演出



【夏】青と白を基調とし、清流のように様々な青が白いしぶきを見せながら流れる演出



【秋】赤・黄・橙を基調に、白川の山々に錦織りなす紅葉をイメージしている



【冬】温かみのある白で雪景色を演出



【クリスマス】赤と緑を基調としたクリスマスカラーの演出



特注アームで欄干全体を照らす位置に設置されたライトアップ演出用照明器具「ダイナワン」(広角)



演出プログラム自動再生器が組み込まれた制御盤

主な納入設備

- ライトアップ演出用照明器具
- ライトアップ演出用コントローラ

WEBサイトで動画がご覧いただけます





(左上)【5階】「いども商店街」の全景。左側はプレゼンの練習やプロジェクト発表ができる「CABARET」。 (右上)【5階】好きな場所で仕事をしたり身体を動かしてリフレッシュできる「空地」
(左下)【5階】誰もが店主になれる「NEO SNACK」。会議にも使われ、朝には手作りパンとコーヒーで朝活が行われる。

人員増・リクルートに対応する 「一緒につくる」オフィスづくり

建築物における提案・設計・施工及びメンテナンスを提供するパナソニックEWエンジニアリング株式会社は、本社と近畿支店が入居するフロアが手狭になり、増床。事業として取り組んでいるオフィス改修のノウハウを注ぎ込み、リノベーションに着手した。10階から12階の本社・支店執務フロアはフリーアドレス制を採用。9階はラウンジ機能を持たせ、部署を越えたコミュニケーションができるシェアフロアとした。特徴的なのは、プロジェクトメンバーを中心に30社を超えるパートナーと共創した5階の「いども商店街」である。

パナソニックEWエンジニアリング株式会社

本社・近畿支店

近畿支店取締役支店長の荻野 龍氏は「コンセプトづくりから入り、内装だけでなく、当社の生業である電気設備を組み合わせた空間がつかれるオフィス内装業に魅力を感じている。当社には新しいことにトライする『やってみよう』という文化があった。そこで、5階を挑みたくなるマインドを育てる場所と定義して、冒険に挑戦する空間にした。また、リクルートなどの際に、このフロアで事業内容を説明できるようにもしているが、とても反応が良い」と語る。この取り組みは、同社のビジネスモデルの実証実験とも位置付けられており、ノウハウや知見をお客様に提供し、運用も含めた提案活動を行っていくという。



パナソニックEWエンジニアリング株式会社

所在地／大阪市中央区城見 ツイン21 JYO タワー
事業主／パナソニックEWエンジニアリング株式会社
オフィスデザイン／パナソニックEWエンジニアリング株式会社
オフィス供用／2026年3月



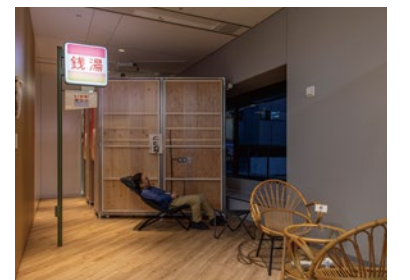
【5階】新鮮な情報が循環する「市場」。書籍や活動のアーカイブが保存されている



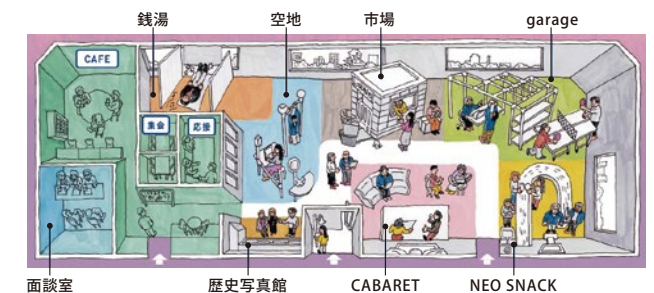
「市場」に置かれた「いどもガチャ」。従業員の挑んでいる事やモヤモヤに応援メッセージを書いて掲示する



【5階】全社員の名前が入った枝を組んでつくったシンボルツリーのある「CAFE」



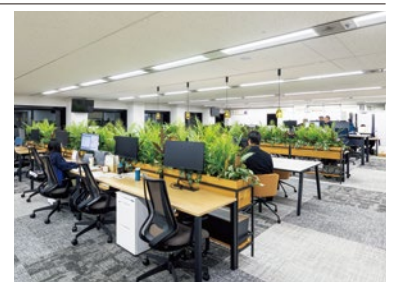
【5階】ココロとカラダを整える、回復するための「銭湯」



9階は他支店とつながり、11・12階は部署間がつながるコンセプト



【9階】オープンな打ち合せや執務ができるラウンジのあるシェアフロア



【11階】フリーアドレス制を導入した部署間がつながる近畿支店の執務フロア

WEBサイトで詳細が
ご覧いただけます



片倉館

欧州スタイルを昭和初期の日本へ 庶民向けに建てられた温浴施設

長野県諏訪市の片倉館は、製糸業で財を成した片倉財閥の2代目兼太郎が、欧州視察旅行中に見た福利厚生施設に関心を持ったことにはじまる。昭和3（1928）年、片倉家は地元民の憩いの場となることを願って当施設を建設した。国指定重要文化財。



浴場棟の千人風呂。水深が1.1mあり立ったまま湯に浸かれる。底には玉砂利が敷き詰められ足裏に心地良い刺激がある。洗い場との仕切り壁の美しい装飾も見所。



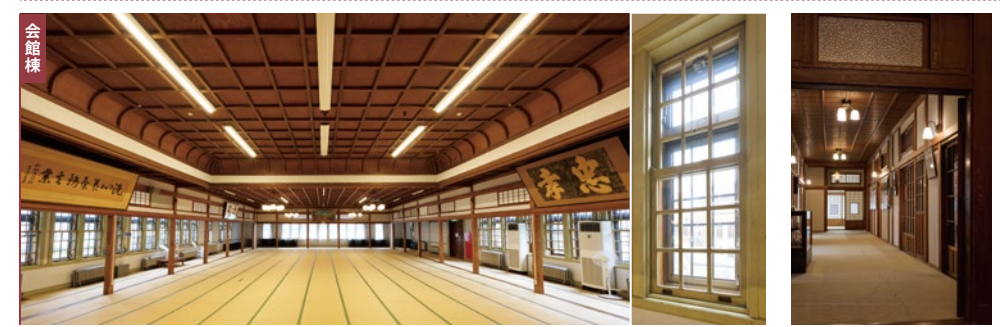
片倉館は諏訪湖畔に位置するため、約2,600本の松の木を基礎に杭打ちし、軟弱地盤を補強して建てられた。会館棟（左）は玄関上、浴場棟（右）は屋上にステップゲートル（階段状の破風飾り）を持つ。庭が広いのは散歩を重視する欧米スタイルによるもの。



会館棟の屋根に並ぶドーマー窓。とんがり帽子を載せたような小屋根が特徴。



①女湯。広さも立ち湯のスタイルも男湯と同じ。仕切り壁に円形のステンドグラスがある。②脱衣所。中央奥が浴場への入り口。③2階の休憩室。漆喰の装飾を施した柱が並ぶ。④木製の手すりや窓が温かみを醸し出す。⑤バルコニーへ左右2方向から上れる階段。

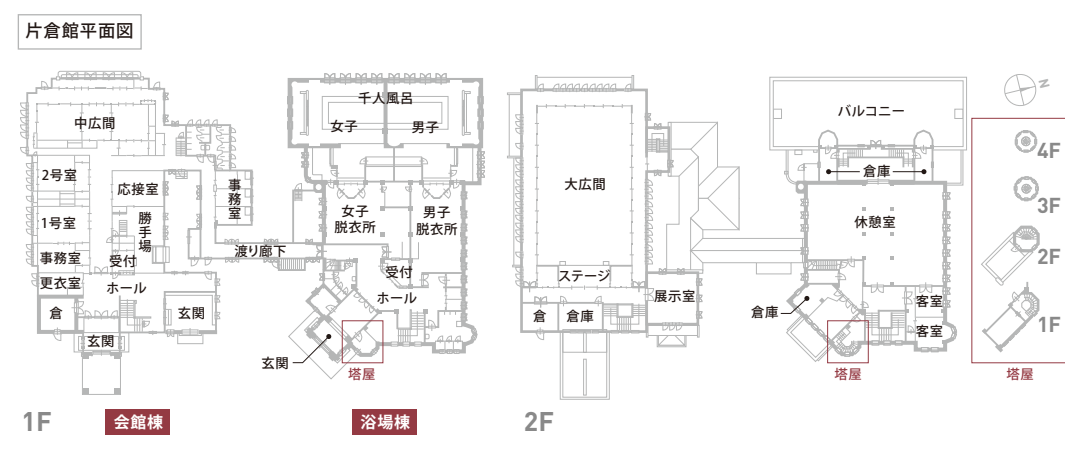


折上格天井をしつらえた204畳の大広間。当初は結婚式にも使用されていた。木造トラスの小屋根によって広い無柱空間を実現した。窓は外観が西洋風であることから上げ下げ窓（写真右）になっている。レトロな雰囲気照明や結露ガラスが見られる廊下。守護や魔除けの意味がある熊の彫刻。塔内の螺旋階段。窓から諏訪湖が見える。※塔内部は非公開

シルク王と呼ばれた2代目片倉兼太郎は大正11～12（1922～23）年に北中米・欧州を視察。その際に訪れたチェコスロバキアのカルルスバードは18世紀以降に発展した温泉地で、ゲートやペートーベンが入浴した温浴施設があった。1906年には施設が拡充され庶民にも利用が広がっていた。兼太郎の帰国後、創業50周年を記念して片倉家は諏訪にカルルスバード同様の福利厚生施設を建設。富裕層だけでなく庶民も気軽に入浴でき、健康づくりや社交の場として利用されることをめざした。

地下1階、地上2階建（一部、3階建）。シェブロン模様を描いた急勾配の切妻屋根や、八角形の塔を持つ外観はゴシック（またはゴシックリバイバル）を思わせる。また、窓の上に見られる円形アーチや、非対称の建物構成にはロマンティックリバイバルの特徴もあり、単一の様式に収まらない独自の建築様式を特徴とする。外壁には守り神の意味を持つ熊や、歓迎を表すパイナップルをかたどった装飾も施されている。浴場には浴槽の底に丸石を敷き込んだ水深1.1mの大きな立ち湯がある。床・壁に地元産の高遠焼タイルを貼り、中央の仕切り壁上に

円形のステンドグラスをしつらえるほか、動物をかたどった彫像を配置するなど、随所に西洋風の意匠がちりばめられている。設計は森山松之助。大阪市出身で、東京帝国大学造家学科を卒業後、辰野金吾に師事して台湾総督府庁舎、久邇宮邸（現聖心女子大学パレス。国指定重要文化財）などを手掛けた。片倉館は昭和初期における西洋建築として、意匠の素晴らしさが認められている。また、実業家が私財で建設した公共の福利厚生施設であることにも歴史的な価値があり、2011（平成23）年、国の重要文化財に指定された。



用語説明
【シェブロン模様】シェブロンは軍服の腕・胸につける山形の階級章。それに似た山形紋。
【ゴシックリバイバル】ゴシック美術の装飾や建築様式の復興を試みた動き。イギリスを発祥とし18世紀後半～19世紀に行われた。
【ロマンティックリバイバル】1900年前後～1930年代にかけて、アメリカやヨーロッパで流行した建築様式。
長野県諏訪市湖岸通り4丁目1-9
協力：片倉館



パナソニックの空間ソリューション



お問い合わせ



パナソニックのソリューションに関するお問い合わせはこちら ➡



ワークプレイス メイキング をめぐる旅

A journey through workplace making

ワークプレイスや
それを取り巻く「場」を
どう育てていくか、
さまざまな事例に
ふれていきます。



Vol.08

提案と実践が交わる共創型オフィス
ソーシャルインテリア
「THE MUSEUM」



継続能力開発 (CPD) 自習型認定研修

・ 設 問 ・

次のうち誤っているものはどれか。

- a. 「関係人口」は「交流人口」と「定住人口」の間に位置する人たちをさす。
- b. 2026年現在、島根県には4年制大学が一つしかない。
- c. 2026年秋にアジア競技大会・アジアパラ競技大会が名古屋で開催される。

関連情報は本誌に掲載されています。

建築士会CPD制度の回答は下記Webサイトから。
<https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html>

この情報誌は、公益社団法人 日本建築士会連合会の継続能力開発 (CPD) の「自習型認定研修」教材として認定されています。